
青春卒業

言葉小僧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春卒業

【Zコード】

N6138D

【作者名】

言葉小僧

【あらすじ】

僕が体験した実際あつた青春時代の話

幸せになれると信じていた

楽しい家族になれると疑つてもいなかつた

こんなにも簡単に崩れるなんて思わなかつた：
ある夏の事

僕には彼女がいた

その彼女の名前はさゆ（仮名）

僕は17歳でさゆは一つ下の子
さゆは僕の一つ下だった

17歳の僕は一人暮らしをしていた

さゆは僕の家で同姓をしていた

さゆとは喧嘩が多くよく別れると喧嘩になりました

さゆといけ合ひ初めて1ヶ月

さゆとは別れてしまった…

僕はさゆが好きで忘れる事ができなかつた…

僕は忘れるためにさゆの友達、ゆい（仮名）と知り合ひ、付き合つ事になつた
ゆいといけ合ひでこそでもせつぱんさゆを忘れる事ができなかつた…

不安定な状態で付き合つてゐるのも嫌になり別れる事になつた…

その1週間後僕は忘れる事ができなかつたさゆは一度付き合つて
くれないかと告白をした

さゆは2度もえてもう一度付き合つて貰ふ事になつた

しかし僕は最低な事をしてしまつた

ゆいとも付き合つてしまひ一握をしてしまつた

それからといつもの、さゆが寝たらゆこの家に行く、といつ事をし

ていたのだ

そんな事をしてはいけないともわかつていたのに…

そんな状態が一週間続き、ゆいとは別れる事となつた

それからさゆともつまむことなくなり、また別れてしまつた…

僕はさゆを今でも忘れる事のできない存在なのかもしれない
それからといつもの、さゆが好きなのによいとまた付き合い始めた

言い訳みたいだけど17歳で一人暮らしは寂しく、誰かと一緒にいてほしかった…

ゆいとまた付き合い始めて三週間たつた頃

僕はさゆにゆいこと付き合つてゐ事を隠して告白をしていた

そしてさゆがもう一度だけ付き合つと聞いてくれ、ゆいにはメールで

「さゆと戻ったから連絡取れやん」

と言いました

するとゆいから電話がきて

「最悪、遊びやつたんやな

と言われました

僕はさゆにゆいと付き合っている事を知られたくなかったので電話でさゆに

「ゆいが俺とさゆ戻ったの知って私も付き合つてるつてゆいかもやから、無視してな、それ嘘やから」

と言いました

しかしそれは僕の嘘でしたそしてさゆと戻つて3日

僕の嘘がばれてしまい、ゆこと一戻してた事もばれて、絶体絶命でした

そして話し合いをする事になりました

僕はまた最低な事をしてしまいました

ほんとに好きなさゆと別れるしかなくなり

怒りに身を任せ、ゆいに手を上げてしまつた…ゆいは痛そうにしきずくまり、話し合いと一緒にきていた男友達も必死に止めましたが僕は止まらず蹴つたり殴つたり…

そしてさゆは

「私の友達に暴力する人なんか嫌や！」

と言われ、ようやく僕は止まりました。
その後、僕はさゆと別れたくなく、ずっと

「別れたくない」

と言っていましたがやはり別れる事になりました…

それからというもの

僕はゆいとは仲直りをして、友達としてまた一緒に遊ぶようになります
した
少しして、ゆいの優しいところや一緒に楽しい事に気付き、好き
になったのです

しかしういは彼氏がいました、それを知つていて遊んでいました

無理矢理誘つてきてもらつていました
僕はゆいに

「前は遊びで付き合つてたけど、まじでゆいの事が好きやー・彼氏別
れて付き合つてくれ

と語つとゆこは

「考えさせて」

と言いました

それから1週間がたち、ゆいからメールがきました

「じめん、彼氏に連絡取るなつて言われた…」

とされました

僕は腹が立ち、ゆいの彼氏の番号を調べ電話をしました

「お前家どになー今からこつたるから話じよー」

と言い、ゆいの彼氏の家に行きました

そしてゆいの彼氏の家に行き、ゆいの彼氏を見た瞬間殴りつけ

「ゆいと別れるーせやなこと本気でしょいたるわー！」

と言いました

ゆいの彼氏は

「別れます」

と言つ

僕は別れたのでゆいに告白をしました
ゆいは迷いながらも付き合つ事になりました

そして僕は友達と一緒にゆいの元彼氏に電話をし

「金用意しろー。」

など金を巻き上げるようになりました

そして悪事は全てばれ、僕は逮捕されました

2ヶ月ほど鑑別所に入り出できました

ゆいは、僕が逮捕されてる間に一人の男と体の関係をもつっていました

僕は顔が広く、すぐにその事実を知ったのです

そして僕は許せなくなり

ゆいとは別の女と体の関係を持ち、その後ゆいの友達の、さゆり（
仮名）を好きになつたと言い別れました

そしてゆいから少ししてメールが届きました

「話あるから来てほしい」

僕は幼なじみに

「行かなあかん！」

と言われ行きました

ゆこは一向に話をしないつゝ黙つていたので僕は

「話ないんやつたら帰るで

と言つて外に出たといふ、ゆいが追い掛けて来て

「話すからまつて…」

と言いました

僕はイライラしていたので

「なんやー…はよゆえよー。」

ときつて言つました

すみるとゆこは

「あなたとの子供があるねん」

と言つました、幼なじみが行けと言つたのがなぜかわからました

ゆいは僕の幼なじみに子供できたらと相談していたのだ僕は

「俺との子供がわからんし、信用できへん!」

と言へ、帰りました

しかしその夜ゆいか

「戻つて一緒にいたいと言わされましたが」

「どうせ他の男とまた体の関係をしようつと持つと思つて

と断りました
それからは僕は色々な女の子と付き合つて、遊びまくっていました
そして半年が過ぎ、僕の友達が

「今からいりこじよ、遊びだー!」

と誘いがきて行ってみるとゆいがいたのです

子供は堕ろしていく、イメージがかなり変わつっていました
その翌日、幼なじみが幼なじみの彼女に電話をして、僕に
「今ゆこの家なんやけど終電なくなつたから車で迎えに来てくれー!」

と伝言を頼まれたと言つてきて、幼なじみの彼女が寝ている僕に伝えにきました

それは実は嘘で、ゆいと話せるために呼ぶために言つたらしくです
僕は嘘とも知らずゆいの家に行きました

するといいが

「その話しそやで」

と言い、眠たいので理解つきず少しして嘘とわからました

そしてゆいが車に乗り話をしていく

また付き合つと言つ話しえなり、付き合つ事になりました
そして付き合い始めて1ヶ月クリスマスの少し前に妊娠している事
がわからました

クリスマスは一緒にユニバーサルへ行く予定だったのにあまりアト
ラクションに乗れなどの話を笑いながらしました

そして僕は決意をしました
ゆいに

「結婚するか」

と言つたのです

ゆこはやぐに

「いじよ、結婚しよ」

と言いました

クリスマスが過ぎ、ゆいの両親に結婚したいと報告にこべと

「二人で考えたんやつたら反対しやん、好きにしたうーー」

と言われ認めてもらいました

しかしその2ヶ月ぐらいは僕が仕事が忙しく、正月も近いため結婚するものが先のばしになりました

18歳と17歳…早すぎたのでしょうか？

そしてその時にもやはり喧嘩をして、別れそうにもなりながらつてきました

しかしやはり喧嘩もたえず、3回間連絡をとれしなくなり、3回の夜ゆいから

「別れよ、疲れた」

とメールがきました

たしかに僕は過去に最低な事もしました、しかし子供はどうなるんだ、自分の勝手で子供また死ぬのか？

真剣に考えた時間は嘘なのか？

疲れた

たつたこれだけで子供を殺すのか？

青春は一步間違えれば人を殺す事になる…

僕はもう、青春を卒業します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6138d/>

青春卒業

2010年10月28日04時29分発行